

## 特集

### 「ロジカルシンキングの基本（その5）」・・・基本的な思考方法（帰納法）

THANKSでは、ロジカルシンキング（論理思考）の特集を組んでいます。  
今回は、論理的に考えるための具体的な思考方法のひとつである「演繹法（えんえきほう）」を紹介しました。  
少しおさらいをしておきましょう。

#### 基本的な思考方法

#### 1. 演繹法（えんえきほう）

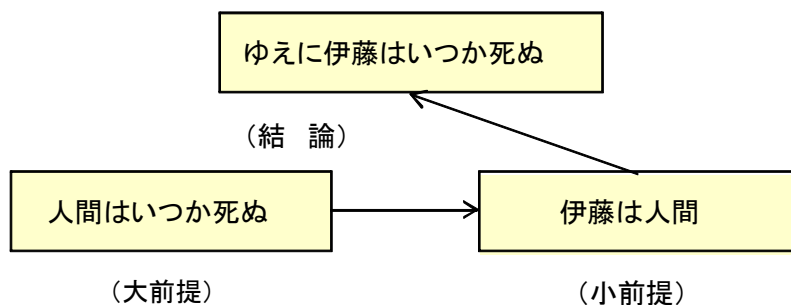
演繹法とは複数の情報を関連づけて、結論を導き出す方法。  
いわゆる「三段論法」の考え方です。

数学的に言えば、  
 $A = B$   
 $B = C$   
ゆえに、 $A = C$

例えば・・・

#### <例題1>

- ・人間はいつか死ぬ
- ・伊藤は人間
- ・ゆえに、伊藤はいつか死ぬ



演繹法では、単に情報をつなげれば良いというわけではありません。  
ポイントは、以下の通りです。

**ポイント1：大前提が崩れないこと**

**ポイント2：小前提に誤りがないこと**

**ポイント3：「大前提」→「小前提」→「結論」が正しくつながっていること**

## 2. 帰納法（きのうほう）

それでは、今回は、もうひとつの思考法である「帰納法」について確認しましょう。

### （1）帰納法とは？

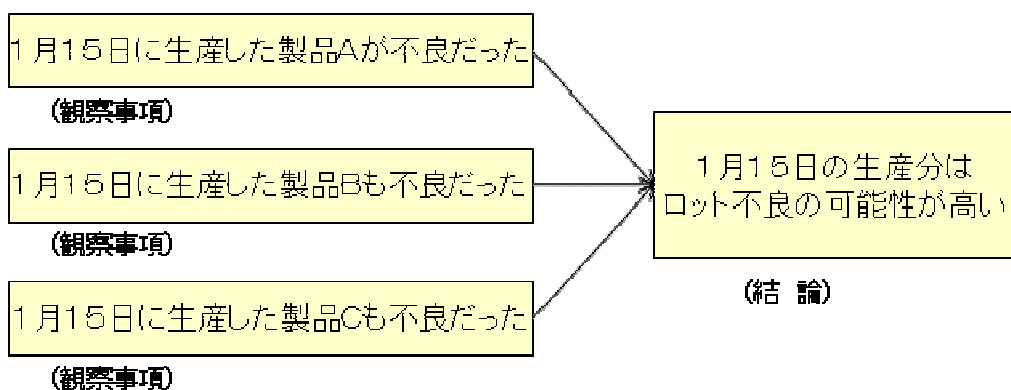
帰納法とは、複数の観察事項（現象、数値）から共通的にいえることを発見し、結論を導き出す方法です。

観察事項Aから、 $X=Y$ がいえ  
観察事項Bからも、 $X=Y$ がいえ  
観察事項Cからも、 $X=Y$ がいえ  
ゆえに、 $X=Y$ は正しい

具体的な例で考えてみましょう。

#### <例題1>

- ・不良品Aは、9月30日に製造したもの
- ・不良品Bも9月30日に製造したもの
- ・不良品Cも9月30日に製造したもの
- ・ゆえに、9月30日製造分はロット不良の可能性大



お客様からクレームがあった場合、その原因を特定するために、不良品の「共通点」を探ります。もし、上記のように3品とも同一製造日であれば、「その日に何か」があったことが推察されるでしょう。

## (2) 帰納法の留意点

前ページで説明した通り、帰納法とは、複数の観察事項（現象、数値）から共通的にいえることを発見し、結論を導き出す方法です。

それでは、以下の例。

- ・クラスの田中さんは、スマップのファン。
- ・クラスの清水さんもスマップのファン。
- ・クラスの吉田さんもスマップのファン。
- ・クラス的女子の中では、スマップが1番人気である。

一応、複数の事項から結論を導き出しています。  
しかし、納得できない・・・  
なぜでしょうか？

### ポイント1：観察事項が量的に十分なこと

クラス的女子は何人なのか？  
上記の例では、6人以下ならば、「1番人気である」と断言できますが、7人以上であれば、そうは言い切れません。  
残りの4人が嵐のファンである可能性もありますから。  
「クラスの中ではスマップファンが多い」とか、「スマップが1番人気の可能性が高い」という結論ならばOKですが、断言するには根拠が足りません。

「・・・・である！」  
会議の中でも、「断言」する人がいます。  
本人としては、断言した方が説得できると思っているのですが、実は逆効果。  
他の人は、心の中で「そうは言い切れないのでは？」と思うことも多いのです。  
そうすると、その人が言っている全てのことに疑念を持ちます。  
せっかく90%以上正しいことにもかかわらず、些細なところで突っ込まれたら、つまらないです。  
こういう場合、相手を納得させたいならば、むしろ「・・・の可能性が高い」止まりの方がベターです。

### <伊藤の失敗！！>

この件に関しては、実は私も苦い経験があります。  
若いころ、ある会社のコンサルティングをしていた時のことです。  
社内の方々にインタビューをした後、問題点をまとめて、会議で発表しました。  
「社員は、自己啓発意欲が不足している」  
私の説明に、ある役員の方が突っ込んできました。  
「伊藤さん、何人にインタビューしたのですか？」  
確かに、その人たちの意欲は低いかもしれないけれど、社員の中には、意欲が高い人も少しはいますよ」

私が言いたかったことは、「全体として意欲が低いので、意欲を高めるための仕掛けをすべき」ということ。

別に、意欲が高い人が「少しいても」関係ありません。

しかし、「不足している」と断言したばかりに、些細なことに突っ込まれ、結局、提案はボツ。

「不足している人が多い」と書いておけば済んだのに・・・

そう思っても、後の祭りでした。

## ポイント2：観察事項が正しいこと

- ・木村拓哉主演の「華麗なる一族」はヒットした。
- ・香取慎吾主演の「薔薇の無い花屋」もヒットした。
- ・長瀬智也主演の「歌姫」もヒットした。
- ・スマップのメンバーが主演するドラマはヒットする可能性が高い。

上記の例は、3つの事象から結論を導き出しています。

ジャニーズに興味が無い人から見れば、「何がおかしいの？」と思うでしょう。

しかし、上記には、大きな間違いがあります。

そう、長瀬智也は「スマップ」のメンバーではなく、「TOKIO」という別のユニットのメンバーですから。

帰納法では、観察事項が多ければ多いほど、論理的に強くなります。

しかし、それは、あくまでも観察事項が「正しい」ということが前提です。

ひとつでも間違った事項が入っていると、論理が大きく崩れます。

たったひとつの間違いが、「他のものも怪しいのでは・・・」という疑念につながってしまうのです。

観察事項を列挙する時には、十分に注意する必要があります。

<次号に続く>